

開催月日 : 平成28年3月24日

平成28年度第8回
定期巡回・随時対応型訪問介護看護連携推進会議

時間	am / (pm) 15:30 ~ am / (pm) 16:30	場所	グッドライフケア港支店
司会	今口 友紀	書記	村山 淳
出席者	麻布地区高齢者相談センター : 主任介護支援専門員 1名		
	高輪地区高齢者相談センター : 1名		
	地域住民代表者 : 民生委員 1名		
	ジャパンケア港 : 介護支援専門員 1名		
	グッドライフケア居宅介護支援センター港 : 介護支援専門員 背戸 洋子		
	グッドライフケア居宅介護支援センター港 : 介護支援専門員 上原 弓子		
	グッドライフケア居宅介護支援センター港 : 介護支援専門員 松山 初美		
	グッドライフケア 訪問看護千代田 看護師 坂元 あづさ		
	グッドライフケア24 : 管理者 今口 友紀		
	グッドライフケア24 : 計画作成責任者 村山 淳		
会議内容	1. 開会挨拶 グッドライフケア24 管理者 今口 友紀		
	2. 参加者紹介 開催前にそれぞれ名刺交換をされていたため、資料をかくにんしていただき割愛		
	3. 前回の推進会議で話われたことの説明と事例報告後の経過報告の流れから 平成27年12月～28年8月までのサービス提供状況報告		
	4. 事例報告		
	5. 意見交換		
	6. 閉会の挨拶 グッドライフケア24 管理者 今口友紀		

詳細
2. 参加者紹介 出席者参照
3. サービス提供状況報告 前回の推進会議議事録と事例を参照していただきながら、簡単にどんなことが話われたのか説明。 前回の事例に出たかたの経過の説明の流れから、現在の利用者様の状況報告(別紙参照)
4. 事例報告 港区の利用者様が少ないこともあり、今回は文京区の利用者様の事例を報告 独居で毎日コールキーでの安否確認、普段は生活援助でのサービスで介入している例を紹介。 (別紙参照)また、追加で文京区と港区での定期巡回のサービスの人数の違いやこのサービスの浸透度を今口さんから説明。

5. 意見交換(事例、文京区の話の踏まえて)
・新規の受け入れは現状どれくらい可能か？
⇒45名が定員。文京支店では現在45名に近づく勢いでお客様が増えている。
港区に関してはまだまだ余裕がある
・文京区と港区の依頼の数の違いはどこと思っているか？
⇒港区は短時間より長時間にしてほしいという利用者様が多く、文京区では長時間の時は家政婦、短時間は訪問介護という意識がなんとなく利用者様の中でわけて考えられている印象。区によって違いがあるが、港区は訪問介護で長めのサービスを依頼する利用者様が多いと感じる。
・定期巡回サービスの周知の為に、効果があった事例の紹介という形での宣伝や、退院調整などで非常に効果を発揮できるサービスと思うので、病院の方にも宣伝していいのではないのでしょうかという意見。
・うちの事業所では自社のケアマネへの紹介が多い。使い勝手がいいので依頼してしまう。
使い勝手がいいので、とりあえず、あいまいなサービスに入れやすい。短いサービスで効果があるので、グッドライフさんは忙しい中でも営業活動を頑張ってもらいたい。
⇒文京の利用者様の介護度は幅広いので、色々な使い方ができるということを事例を作って営業活動をしていきたい。
・拒否がある方こそ、このサービスの利用価値、必要性があるのではないか。少しの訪問でもその方の気配を感じるだけでも、地域の皆さんとどうすればいいか、皆でどう関わっていけばいいか、など考えることもできるので良いサービスだと最近特に思うようになった。
退院直後の漠然とした不安を解消するためにも、どこが困っているのか、しっかりアセスメントがしやすいサービスかなと。
資料を拝見してみて、これまでの利用者様の看護とケアマネの状況を見てみると看護の利用は16名中7名。その中で他者のケアマネのお客様は9名ということで比較的自社から繋がっている方が少ないと感じました。軽度者の方でも、医療が必要な方も増えているので、今後、訪問看護の視点からも、訪問看護ステーションも増えているので、自社で成功した例をもって訪看のケアマネへ宣伝しても良いのでは。ジャパンケアのようにまずは自社のケアマネさんのお客様でまず利用してみて、融通がきく部分もあると思うので、その中で見い出せたことを他者さんに置きかえた時にどうなるかってことをまとめて話をもっていくなどすると、利用者の増加にも繋がるのではないかと。今後軽度者が介護保険から外れる可能性がある。要介護度3～5を支えていくという事を考えると、看護と連携出来る、中度者の対応も可能というところで、今後このサービスがうまくまわっていく、もう少し数を増やしていく地域にしておかないと、今後重い方を看っていくことが出来なくなってしまう。
⇒訪問看護がなかなか参入できない理由は頻回に訪問しなければいけないんじゃないかと思っている事業所が多いのではないかと。サービスへの理解ができていないとの意見。中央区の事業所の方からの意見で勇気がでない(参入に)と言われていた方もいた。
⇒文京区の他事業所のケアマネの方は医療では連携して下さるが、介護保険でのアセスメントだけではなかなか参入してくれないのが現状。
⇒末期のお客様などは、介護、定期巡回で、看護は医療でという方法など色々と利用パターンはあるが、このサービスがどうして必要なのかという、最初のアセスメントを間違えないようにする事が重要と言える。

<p>1か月でまとめたの支払なので、お得だとその部分のみで依頼してくるケアマネージャーの方も中にはいらっしゃる。</p> <p>⇒看護で一緒に入るとなると、ヘルパーを中心にサービスをすすめていった方が受け入れやすいのかもしれない。ヘルパーがまずは入り、看護はうまく繋がっていけばいいのかもしれない。今後は看護を利用して随時訪問が具体的にわかる資料を、信憑性があるものとして提示していくことも必要かもしれない。</p> <p>⇒ヘルパーを含め、緊急で訪問した例はほとんどない。(頻回に訪問すると思っている方が多い)</p> <p>⇒役割分担が担当者会議でしっかりと話しあわれていれば問題はないのかなと思う。</p>
<p>・文京・港区の違いは何か？</p> <p>⇒港区に比べて排泄、身体介護の利用者さまが文京区は多い。お客様のニーズが違うのかも。</p>
<p>・訪問入浴を併用で利用されると単位数を超えてしまう事が多い。金銭面の負担は大きい。</p> <p>⇒入浴を重度者でも受け入れてくれるデイサービスがあれば重い方も利用しやすいと思う。</p>
<p>・サービスについて、自立を目指して定期巡回からはじめて、いずれ訪問介護に移行する方もいるので、自立支援の観点から利用を進めてみるのも良いと思う。</p> <p>いずれこのサービスはバラすものと思っていて、いずれ訪問介護に移行するという進め方で良いのでは。主となる訪問介護サービスが評価される地盤を作っていくことが大切。</p>
<p>今お話を聞いてきて、自分では理解していない部分もあって、こういう使い方もできるんだと思いました。利用者様の方で、「もう帰っちゃうの？もっとやってくれないの？」という気持ち強いお客様には、できないところをヘルパーが手伝うということ、フォローし説明できればと思いました。</p>
<p>前の職場にいた時は使いにくいイメージだった。今の会社に入社してから定期巡回のサービスを身近で感じる事ができるようになった。使ったことがないとどうしても躊躇してしまうが、自分が感じた、イメージが変わったところを他のケアマネージャーに伝えられればと思います。</p>
<p>これまでの話を聞いての意見</p> <p>・個人からすると、自分のことを知られたくないという方がいるが、地域としては何も知らずに亡くなっていたということがないよう、このようなサービスに助けてもらえればと思う。夏場脱水症状で亡くなった方がいた。なぜ気づくことができなかつたか考えると、昔に比べ、地域の関わりが減った、最近では関わりたくないという人が多くなったと思う。また、定期巡回のようなサービスがあることを利用者自身や、家族も知らない方が多いので地域の皆様に知ってもらえるように、そのような機会をつくりたいと思う。家族に知ってもらうためにしむけるようにしたい。文京区との違いは港ではプライドの高い人が多いのでは？そういう意味で介護サービスを使いたくない人が多いのかもしれない、元気な人もいるが、顔を合わせたくないような方もいる。介護保険料を支払って、これだけのサービスが利用できるのであれば、知らないの人も多いので、もっと使わなきゃ損だと思う。もっと使ってもらえるようPRしないと。そういう意味ではもっと地域と積極的に関わっていかなければと思っている。</p>
<p>→本人は使いたくないが、家族は使いたいということもあるので、その辺の意見が揃わないと難しい部分ではあるが、ちょっと先になると、サービスを利用される団塊の世代がもっと増えるので、今いる人が、サービスをもっと利用し、より良いサービスにしていくために情報やサービスを精査していく必要がある。</p>